

現場征服の力 (ヨシュア 6:12-16)

人々は、外には見せないのですが、実際は、自分ではコントロールできない、さまざまな悩みや問題を抱えて生きています。生活はできていて、仕事や勉強はよくできるとしても、家庭には複雑な事情があったり、病気、事故で苦しむ人は多いです。どんなにがんばっても成果は出ない無能に悩み、人と比べて劣等感や優越感に翻弄される場合もあります。精神状態は、疲れて重荷を負っている状態でしかありません。それなのに、本当の問題や理由は分かりません。神様を離れて、悪魔(サタン)に操られているので、そのようになっているのですが、分からないので、なにかのせいにしていきます。なにかのせい、だれかのせいにしていくと、心に傷として残ってしまいます。なんとか解決したくて、突破口を求めて占い、偶像崇拜をするしかないのです。そこには答えはなく、さまよい続けるしかありません。このような人々がいるのが現場です。そこに私たちは、現場灯台として置かれていることを忘れてはなりません。自分自身を見ると、とても未熟で問題だらけに思えるとしても、キリストによって、すでに違う存在に変えられていて、まことの人生の答えを与えることができる、光を放つ存在になっています。たましいを生かすことができる存在なのです。私たちの力ですることではないので、できる、できないと言う必要はありません。ダビデは、ゴリヤテに「万軍の主の御名によって」つまり「キリストによって」立ち向かって勝利しました。私たちも十分に勝利できます。神様は、わざと人数が少なく、階級も下っ端の人ばかりを集めて初代教会をスタートさせられました。それは、人間の力ではないからです。有るものがない者のようにするため、無に等しいものを選ばれた(1コリント 1:26-29)と言われているように、それが神様のやり方です。弱さ、問題があることは、現場でたましいを生かすことには、なんにも問題になりません。今日から考えを変えましょう。この働きは、私の力ではなく、祈りによってできることを、今日のヨシュアの聖書箇所から見ましょう。

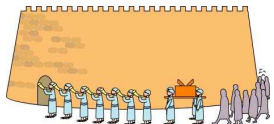
イスラエルの民がエリコの前に来たときに、神様

は、6日間、毎日1回ずつ契約の箱を前にして、祭司が角笛を吹きながら町をまわり、7日目は7回回って、ときの声を上げなさいと言われました。ふつうには、考えられないことですが、これは、人間の力で成し遂げるのではなく、神様がなさることを見なさいということです。これが祈りです。これによってエリコは、崩れました。

契約の箱を前に立ててついて行きなさいと言われました。これは、**なにがあってもキリストを優先して、真っ先に立たせなさい**ということです。キリストを優先して祈ると、難攻不落の現場に神様ののみわざが現れます。キリストは、すべて完了され、死と罪の原理から解放してくださいました。なにがあってもまず、私には問題はない、終わったと確認しましょう。問題は終わりました。感情がついていかないとしても、神様の約束です。

そのようにキリストを優先すると、**私はいま現在幸せな者**だと告白するようになります。世の中が言う肉的な幸せではありません。いのちがあることが幸せで、天国の民であって地獄の民ではないことが幸せです。そして、勝利のキリストの力があふれることが幸せなのです。すでに幸せになっているので、**神の国が臨むことが課題**になります。ダビデはとぼしいことがないと告白しました。それは、義の道、つまり、神の国に導いてくださるからです。パウロは、キリストによってどんなことでもできる、どこでもかまわない、問題ないと言いました(ピリピ 4:13)。残り神の国が臨むことだけです。

そして、回るときにことばを出してはならないと言われ、角笛を鳴らすだけだと言われました。それは、**キリストの福音だけにして、自分のことを否定しなさい**ということです。それが祈りです。自分の意見を抑えて殺し、キリスト優先して、神様のみことばだけがあるようにするのです。長い間サタンと仲良くしてきたので、自分中心になっているので、計算、経験、水準が出て来ますがそれらを否定するのです。弟子たちが、国はいつ解放されるのかと問いましたが、イエス様は「あなたがたは知らなくても良い」と言われました。パウロは、



毎日死ぬと言いました(1コリント 15:31)、なにも思い煩ないで(ピリピ 4:6-7)と言いました。イエス様は「わたしのことばがあなたがたに留まるなら」と言われました(ヨハネ 15:7)が、それは、自分を否定して、神様のみことばだけ、キリストの福音だけが力を発揮するように思いをストップするということです。イエスの名によってサタンよ去れと命じて、キリストを優先しましょう。その方法として深い腹式呼吸をします。

そして、7日目には7回まわりなさいと言われました。7という数字は、完全という意味があります。なにも話をせずに従い、いっせいに大声で叫ぶときにエリコは崩れました。このように、神様がなさることは完全なのです。なにも疑わず、**福音のメッセージを聞いて、キリストの福音にオールインするなら、聖霊の完ぺきな働きが起きます**。なにか足すこと、意見することはありません。オールインしなさいということです。それが集中であり、自分自身をささげることです。これが聖霊充滿です。なにか願い求めるのではなく、完全な神様の中

に自分をオールインするのです。これが味わうことです。このようにオールインすることによって使徒 1:14 の祈りになり、現場が変わります。信者ならだれでもできる新しい生き方です。自分を完全に主に預けて、そのあとで、主がなさることを見るのです。自分の思いではなく、祈りで変えられます。また、目の前のことは変わらなくても、私たちのやり方は祈りです。祈りは必ず答えられます。

祈りにフォーカスをあわせて、まず、祈りの時間を決めましょう。祈りを実践することによって現場の暗やみが砕かれ、神の国が臨みます。そのために、聖霊がともにおられ、十字架の血で新しく造り変えてくださったのです。弱さがあれば、よりチャンスです。使命をもって主に自分を預け、キリストにオールインして、神様がなさることを現場で見よう祈ります。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

ヨシュア 6:12-16 現場征服の力

なるほど/ 人々は自分では解けない問題に縛られていて、そこで信者は真の答えであるキリストを伝え、魂を生かす現場灯台として派遣されている者である。信者なら誰でも、キリストを優先して、自分を否定し、福音にオールインする祈りを通して、自分の弱さとはまったく関係なく、現場を生かす主人公になることができる。ならば/ 祈りにフォーカスを合わせて、祈りを決心し、祈りの時間を定めて実践しよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2019年4月28日)

1 部礼拝： 人生の三つの発見 (ルカ 5:1-11)

願っていない人生の苦しみが起きるとき、礼拝の中で答えを見つけて、神様の計画の中にいるようにされて感謝します。まずキリストから発見して、普段ただキリストの体質に変えますように。包装した偽りの私を捨てて、神の子どもになった私、契約と神様の計画の中にいる私を発見しますように。神様が私を呼ばれた人生の理由、目的、方向を発見して、ただキリスト、ただ神の国、ただ聖霊の満たしを味わう霊的サミット、237カ国生かす証人になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2 部礼拝： 次世代のために (イザ 62:6-12)

サタンに掌握されて偶像文化に陥った世の中で、霊的問題、精神問題、肉体の問題に苦しむ個人を生かすように私たちを召されて感謝します。救いの奥義であるインマヌエルを味わいながら、みことば運動、福音運動、いのち運動を通してすべてを生かして回復する伝道者、証人として神様の栄光を現しますように。起きて光を放って、レムナントと光の経済を回復して、237カ国生かす神の子どもの祝福を味わいますように。次世代のために見張り人、土台、証人になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。